

在宅医療連携拠点事業成果報告

拠点事業者名: 富山県上市町

1 地域の在宅医療・介護が抱える課題と拠点の取り組み方針について

高齢化が進み在宅療養者が増加している中で、診療所は全て一人医師診療所、診療所数の減少、訪問看護師の不足等医療資源は限られている。その中で24時間対応の在宅医療の提供が求められてきており、それに対応するには、病院による後方支援体制の整備と近隣町村を含めた範囲での医療と介護の連携が必要である。

これまでも町村単位で地域ケア会議や研修会が地域包括支援センター主催で開催されてきたが、ケアマネジャーが中心であり、医師や歯科医師、薬剤師は対象となっておらず、多職種が一堂に会する場がなかった。また、病病連携、病診連携、医療と訪問看護の連携、訪問看護と地域包括支援センターの連携、地域包括支援センターと介護サービス事業所との連携と直近の関係機関間での連携はある程度取れているものの、それを超える連携については、不十分であった。そのため、「顔の見える関係づくり」を主眼に情報交換、事例検討や研修を通し、職種間の相互理解を深め、連携を推進することとした。

また、富山県は65歳以上人口当たり介護施設定員数が全国5位と施設が比較的多く、また町内にも総合病院、介護老人福祉施設、介護老人保健施設等があり、入院・入所を希望する意識が高い傾向にある。在宅医療を推進するには、まずは在宅医療に関心をもってもらうことが必要であり、講演会やパンフレットを通じた普及啓発に取り組むこととした。

2 拠点事業の立ち上げについて

拠点事業を立ち上げるに当たり、ケアマネジャーの資格をもつ看護師、保健師、社会福祉士を常勤として配置した。看護師は、「多職種連携の課題と解決策の抽出」「効率的な医療提供のための多職種連携」を中

心に担当、保健師は「在宅医療従事者の負担軽減の支援」「在宅医療に関する地域住民への普及啓発」「在宅医療に従事する人材育成」を中心に担当した。

受託したのは当町であるが、医師会が郡医師会としてチームを組み取り組むこととなっていたこと、介護保険組合を構成している単位で介護関連施設の整備がされていることから、町ではなく郡単位として取り組むこととなった。行政を超えた範囲での取り組みであったため、町外の行政、関連職能団体、関連施設の理解を得ることに苦労した。

3 拠点事業での取り組みについて

(1) 地域の医療・福祉資源の把握及び活用

○中新川地域の医療・福祉資源

病院数(病床数)	2(279)
(内)二次又は三次救急	0
(内)療養病院	0
(内)在宅医療を提供する病院数	2
(内)訪問看護を提供する病院数	0
診療所数	20
(内)有床診療所数	0
(内)在宅医療を提供する診療所数	14
(内)在宅療養支援診療所	1
(内)訪問看護を提供する診療所数	0
訪問看護事業所	2
居宅介護支援事業所	16
訪問介護事業所	9
デイケア	3
デイサービス	22
介護老人保健施設	2
介護老人福祉施設	3
ショートステイの受入施設	8

○中新川郡在宅医療資源ガイド

地域の医療・福祉資源についてアンケートをとり、ガイドを作成し、多職種・多機関連携に役立ててもらうために配布した。

(2) 会議の開催(地域ケア会議等への医療関係者の参加の仲介を含む。)

中新川郡の在宅医療を推進するために、郡医師会と上市町が平成24年5月にたてやまつるぎ在宅ネットワークを設立した。

構成員:中新川郡医師会、中新川郡歯科医師会、かみいち総合病院、富山県薬剤師会中新川支部、中新川郡内訪問看護ステーション、中新川郡内市町村、中部厚生センター、中新川介護支援専門員等

出席:かみいち総合病院、地域包括支援センター等関係職員

会議内容

- 第1回 会設立、事業計画、在宅医療の取り組み状況について意見交換
- 第2回 今年度の取り組み、来年度以降の取り組みについて意見交換、在宅医療の提供体制(後方支援、かかりつけ医の選任等)について協議

(3) 研修の実施

在宅医療推進連絡会

職種や機関をこえ、情報交換を行い「顔の見える関係」を作り、多職種の専門性を生かし、情報交換で抽出された課題の解決策を検討することを目的に開催

第1回(参加者100名)

目的:在宅医療連携の必要性を学び、職種や機関をこえての顔合わせ・情報交換を行う

内容:演題 在宅医療の推進

講師 富山県中部厚生センター

所長 垣内 孝子 氏

意見交換会・顔合わせ

第2回(参加者88名)

目的:事例の支援経過を振り返ることで

- 1)連携のあり方について考え相互理解を深める
- 2)各々の立場から、在宅医療を支える方法を考え今後の連携に繋げる

内容:事例検討

テーマ「本人・家族が希望する在宅での看取りが実現した事例」

- 1)主治医の立場から
- 2)地域連携室の立場から
- 3)ケアマネの立場から
- 4)かかりつけ医の立場から
- 5)訪問看護の立場から
- 6)質疑応答

実際に看取りを行った家族の体験談

第3回(参加者52名)

目的:在宅医療を担っていくための役割をグループで話し合い、意見交換を行うことで在宅医療について共通認識を持ち、相互理解を深める

内容:1)グループワーク

テーマ「在宅医療を担っていく私たちの役割」

*事前に提出していただいたレポートの内容をまとめたものをグループで話し合う

2)発表・アドバイザーからの一言

第4回(参加者44名)

目的:在宅医療・介護に携わる専門職員が、事例検討を通じて、支援者としての関わり方・支援の視点・より効果的な支援の方法等を意見交換することで、支援者としてのスキルアップ及び連携の促進を図る

内容:事例検討

テーマ「医療依存度の高い在宅療養者の支援について」

情報交換会(参加者46名)

目的:1)各々の立場の課題を抽出し、解決策を抽出

2)相互理解を深め、今後の在宅医療連携に繋げる

内容:グループワーク

テーマ「在宅医療・介護の現状と多職種連携について」

講師:南砺市民病院 地域連携科

竹内 嘉伸 氏

・参加者が参加しやすい日時に開催

・在宅医療連携拠点事業に取り組んでおり、在宅医療に精通している医師を講師とした

在宅医療研修会(参加者 66 名)

目的:入院中に患者に接し、退院指導する病棟看護師等が在宅療養の視点をもっているかが在宅医療への移行の大きな鍵となる。地域の病院看護師等に在宅移行支援について学んでもらい、今後のスムーズな在宅医療・療養への移行に役立ててもらおう。

内容:講義

テーマ「退院調整から在宅療養へ
～地域包括ケアの実現に向けて～」

講師:在宅ケア移行支援研究所

宇都宮 宏子 氏

対象:主として病院看護師・ソーシャルワーカー等、その他郡内の在宅医療療養従事者
工夫した点

・町立病院共催とし、病院職員の参加要請を強化した

・効果(アンケート結果より)

- 1)多職種でグループワークを行うことにより、在宅医療について共通理解することができ、また各々の職種についても相互理解することができた
- 2)同職種間でグループワークを行うことで、共通認識につながった
- 3)医師との連携が図りやすくなった
- 4)多職種・他機関の方と話しやすい関係になった

・拠点事業所(上市町福祉課)が主となり、中新川郡医師会、行政(立山町・舟橋村)の協力を得て、かみいち総合病院、在宅医療福祉事業所の声掛けを行った

・工夫した点

- 1)医師が参加しやすいよう日程調整を図った
- 2)多職種・同職種間で共通認識を持つため、多職種で話し合う場と同職種間で話し合う場を設定した

在宅医療療養従事者研修会(参加者 54 名)

目的:在宅医療における連携の必要性とより効果的な連携の仕方を学び、今後の支援に役立ててもらおう

内容:講義

テーマ「在宅医療・療養における効果的な連携の在り方について」

講師:オレンジホームケアクリニック

紅谷 浩之 氏

対象:郡内の在宅医療療養従事者

工夫した点

(4) 24 時間 365 日の在宅医療・介護提供体制の構築

中新川郡内の全診療所が医師一人体制であり、訪問診療をする際の医師の負担が大きいと、訪問診療開始に踏み切れない医師がいる。また、訪問診療を行っている診療所は、医師一人で 24 時間対応する必要があり、医師にかかる負担が大きく、医師は疲弊している。

訪問診療を希望する患者に対して、診療所医師の受け入れ数に限度があり、連携病院である総合病院も訪問診療に出ている。

こういった診療所の状況や患者の不安に対応するため、1ヶ所の訪問看護ステーションは 24 年度から 24 時間対応、もう 1ヶ所の訪問看護ステーションも 24 時間電話対応をしている。

また、医師会では訪問診療を行っている患者に副主治医をつけ、医師一人にかかる負担を軽減する取り組みを始めている。また、開業医が訪問

診療を受けている在宅療養者に対しては、連携病院に急変時後方支援の協力をお願いし、了解を得た。さらに、郡外の病院から退院し、在宅療養に移行する患者については連携病院の総合病院で状況の把握、在宅生活への準備を整えたうえで在宅主治医へ紹介してもらい体制づくりをしているところである。

※資料 在宅医療の提供体制

(5) 地域包括支援センター・ケアマネジャーを対象にした支援の実施

・特にありません

(6) 効率的な情報共有のための取組(地域連携パスの作成の取組、地域の在宅医療・介護関係者の連絡様式・方法の統一など)

・情報共有ツールとして、中新川郡内宅連携システムを構築した。導入するにあたり、説明会等を開催し、導入を促進した。

導入説明会:講義・ソフト説明会

管理者向け説明会

操作説明会

・システム内に終末期・PEGのパスを導入(近隣で使用している物を利用)

・歯科連携の連絡、申込み方法用紙の作成を歯科医師会に依頼

・病院と介護支援専門員の情報共有シートの作成準備

(7) 地域住民への普及・啓発

講演会の開催

1回目(上市町)

テーマ:在宅医療でできること

演題 「住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすためには」

講師 南砺市民病院 南眞司院長

在宅医療におけるサービスの紹介

参加者 36名

2回目(舟橋村)

テーマ:これからの医療と介護の連携

演題 「住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすためには」

講師 富山県中部厚生センター 垣内孝子所長

在宅医療におけるサービスの紹介

参加者 45名

3回目(立山町)

テーマ:開業医とみんなで支える在宅医療

演題 「町の開業医でできること」

講師 川瀬医院 川瀬紀夫院長

在宅医療におけるサービスの紹介

参加者 35名

出前講座

場所 生きがいデイサービス、地区老人会、区長

会各1回

内容 医師、保健師の講義

・在宅医療の必要性

・在宅医療とは

・かかりつけ医の推奨 等

参加者 延べ約100名

広報

広報8月号 在宅医療特集

広報9月号 在宅医療講演会の案内

ホームページ

・在宅医療連携拠点事業の受託及び事業内容

・たてやまつるぎ在宅ネットワーク会議

・在宅医療及び看取りの場、かかりつけ医の推奨等について

在宅通信

町民向けに在宅医療連携班、たてやまつるぎ在宅ネットワーク、システムの紹介、講演会のレポートを掲載したものを全戸配布した。

在宅医療マップ

住民向けに在宅医療等を提供する機関一覧を作成し、公開。

・町ホームページ上にWeb上で公開

・冊子を作成し、配布

4 特に独創的だと思う取り組み

1) 上市医師会だけではなく、中新川郡医師会の協力を得て取り組みを行った

2) 上市町の介護保険者は上市町・立山町・舟橋村で構成する中新川広域行政事務組合であることから、行政の垣根を越え立山町・舟橋村の協力を得て取り組みを行った

3) 地域全体の多職種・多機関に協力を得て取り組みを行った

5 地域の在宅医療・介護連携に最も効果があった取り組み

ネットワーク会議、推進連絡会、研修会など中新川郡の多職種で集まる機会をもったことで、顔の見える関係づくりができ、また在宅医療における地域の課題がみえてきた。

6 苦勞した点、うまくいかなかった点

- ・在宅医療福祉従事者の協力は得られたものの、その主体性を引き出すには至らなかった
- ・在宅医療に対する取り組み姿勢に温度差があり、医師会・行政間の調整に苦勞した
- ・医師会と病院間の調整に苦勞した

7 これから在宅医療・介護連携に取り組む拠点に対するアドバイス

- ・地区医師会の理解と協力を得ながら、事業を進めていくことが重要である
- ・各職種の主体性を重視し働きかけるよう心がける

8 最後に

拠点事業を実施したことでできてきた多職種の顔の見える関係を信頼できる関係に発展させていくために、今後も多職種での事例検討会や研修会を開催していく予定である。

また、在宅医療の推進を図るためには、住民への普及啓発が重要であり、今後も充実させていきたい。

また、地域の在宅医療の課題解決に向け、医師会、町村、県、関連介護関係機関等との連携を強化しながら地域に根差した支援体制の構築に継続して取り組んでいきたい。